

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 川上でのインフレ懸念が強まった(05年4月生産者物価)

発表日: 05年5月17日(火)

~生産者段階での価格上昇圧力は強い状態~

(No.U1-031)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001: seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

| | 生産者物価 (Producer Price Indexes) | | | | | | | | | | WPI |
|-------|--------------------------------|--------|------|--------|------|------|------|------|-------|--------------|------|
| | 最終財 | コア | | エネルギー | | 中間財 | | 原材料 | | <参考> 輸入物価 | |
| 04/04 | +0.7 | (+3.7) | +0.3 | (+1.4) | +1.8 | +1.4 | +1.2 | +1.7 | 38 | +0.3 | 36.7 |
| 04/05 | +0.6 | (+4.9) | +0.1 | (+1.5) | +1.4 | +1.0 | +0.8 | +3.3 | 46 | +0.2 | 40.2 |
| 04/06 | 0.1 | (+4.0) | +0.3 | (+1.7) | 0.8 | +0.4 | +0.3 | +0.8 | 0.4 | +0.1 | 38.6 |
| 04/07 | +0.1 | (+3.8) | 0.1 | (+1.4) | +2.5 | +0.6 | +0.5 | +0.1 | +10.9 | +0.0 | 40.7 |
| 04/08 | +0.1 | (+3.3) | +0.3 | (+1.5) | +0.3 | +1.0 | +1.0 | 0.3 | +2.5 | +0.3 | 44.9 |
| 04/09 | +0.3 | (+3.3) | +0.3 | (+1.7) | 0.2 | +0.3 | +0.8 | 4.5 | 1.3 | +0.1 | 45.8 |
| 04/10 | +1.5 | (+4.5) | +0.3 | (+1.8) | +5.7 | +1.0 | +0.5 | +4.3 | +4.3 | 0.1 | 53.2 |
| 04/11 | +0.7 | (+5.0) | +0.3 | (+2.0) | +2.7 | +0.8 | +0.3 | +7.6 | +3.1 | +0.9 | 48.5 |
| 04/12 | 0.3 | (+4.2) | +0.2 | (+2.3) | 2.4 | +0.1 | +0.4 | 3.1 | 1.4 | +0.4 | 43.3 |
| 05/01 | +0.1 | (+4.2) | +0.7 | (+2.7) | 1.0 | +0.2 | +0.7 | 1.6 | 2.8 | +0.3 | 46.9 |
| 05/02 | +0.4 | (+4.7) | +0.1 | (+2.8) | +1.4 | +0.7 | +0.5 | 1.6 | 3.0 | +0.1 | 48.1 |
| 05/03 | +0.7 | (+4.9) | +0.1 | (+2.6) | +3.3 | +1.0 | +0.3 | +4.3 | +1.0 | +0.3 | 54.6 |
| 05/04 | +0.6 | (+4.8) | +0.3 | (+2.6) | +2.1 | +0.8 | +0.2 | +2.7 | +0.8 | +0.4 | 53.0 |

(出所) 労働省 (Department of Labor)

(注) 数字は季節調整前月比。但し、()内は前年同月比(未季調)。

コアが前月比+0.3%と3月から加速

05年4月の生産者物価(最終財)は、エネルギー・食品価格の鈍化によって前月比+0.6%と前月の同+0.7%から鈍化したものの、市場予想の同+0.4%を上回った。一方、変動の大きい食料・エネルギーを除いたコア(最終財)は、資本財が鈍化した。自動車を含んだ消費財の伸び加速により同+0.3%と市場予想の同+0.2%を上回り、生産者段階での物価上昇圧力が強まっていることが示された。

上昇圧力は強い状態

基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では、これまでの川上での物価上昇を背景に中間財(コア)が+5.8%(3月同+6.4%)と高止まりしているが、ピークアウトしており遅れて影響を受ける最終財(コア)が同+3.0%(3月+4.0%)と7ヵ月ぶりに鈍化した。ただし、水準が高いことから生産者段階での物価上昇圧力は強い状態にある。

資本財が鈍化した一方、消費財コアは上昇ペース加速

最終財のカテゴリー別の動向をみると、エネルギーは前月比+2.1%(3月同+3.3%)とプラス幅が縮小した。天然ガスが同+6.6%(同+2.3%)と上昇ペースが加速したものの、ヒーティングオイルが同-1.7%(同+1.5%)とマイナスに転じ、ガソリンが同+2.6%(同+5.3%)と減速した。食品関連では、卵が同-2.9%(同-1.2%)と下落幅が縮小したものの、乳製品が同-1.7%(同-0.3%)と下落幅が拡大し、若鶏、ソフトドリンク、クッキングオイル、フルーツ等が下落に転じたことにより、食品価格は同+0.1%(同+0.3%)と鈍化した。

消費財(エネルギー・食料品を除く)では、アルコール飲料が前月比-0.9%(3月同+0.0%)、男性物衣料が同-1.6%(同+0.6%)と下落した。一方、薬が同+0.9%(同+0.2%)、タバコが同+1.0%(同+0.1%)、宝石・プラチナ・金が同+0.4%(同+0.1%)、玩具・ゲームが同+0.6%(同+0.0%)、家具が同+0.4%(同+0.1%)とプラス幅を拡大した。さらに、乗用車が同+0.5%(同

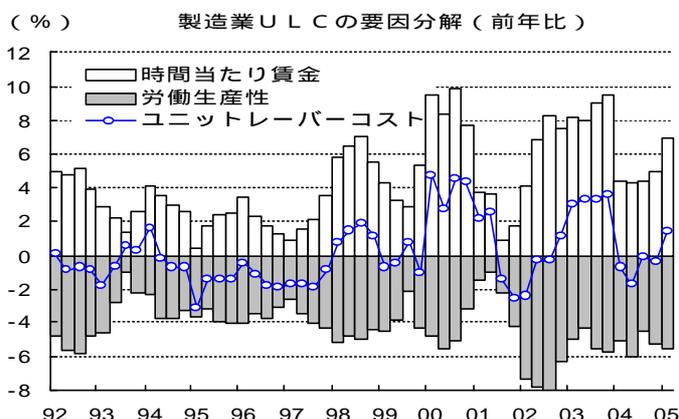
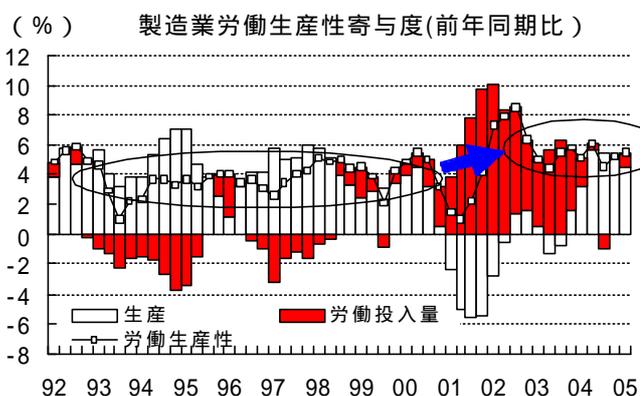
02%)とプラスに転じたことから、消費財(エネルギー・食料品を除く)は同+02%(同+0.1%)と加速した。

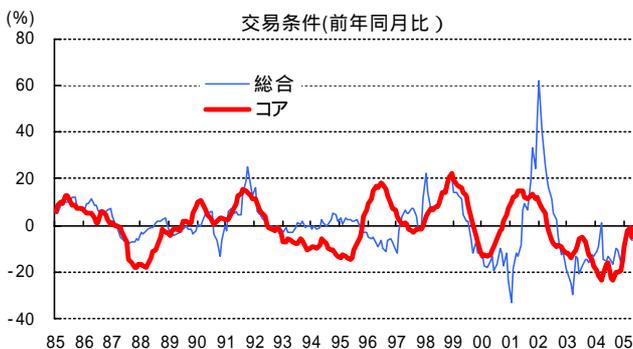
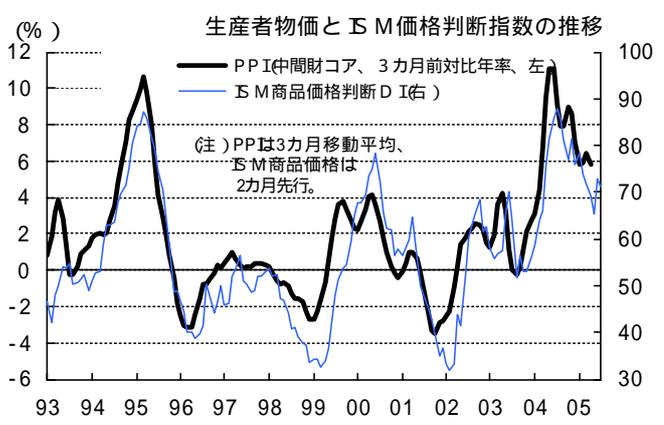
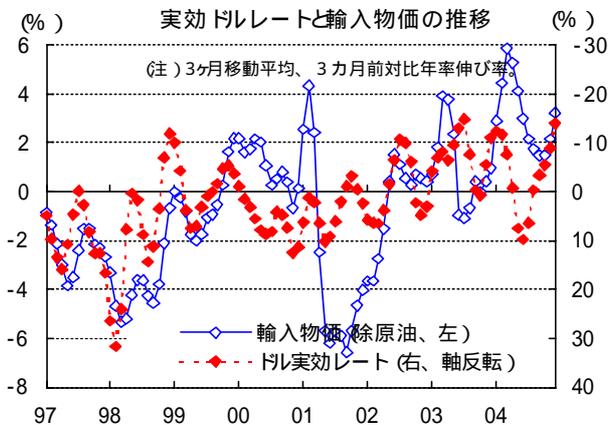
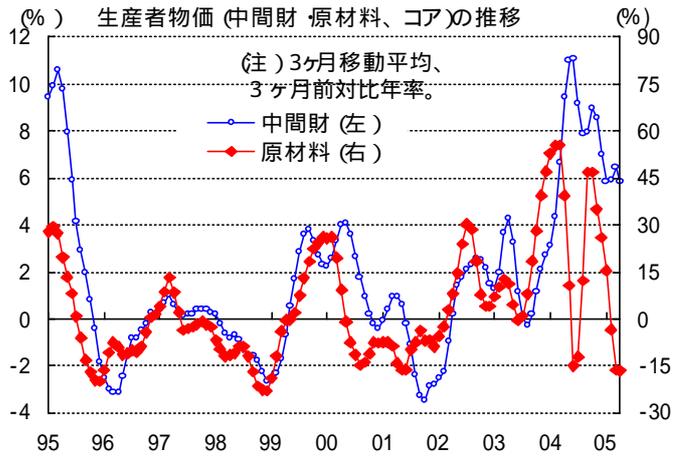
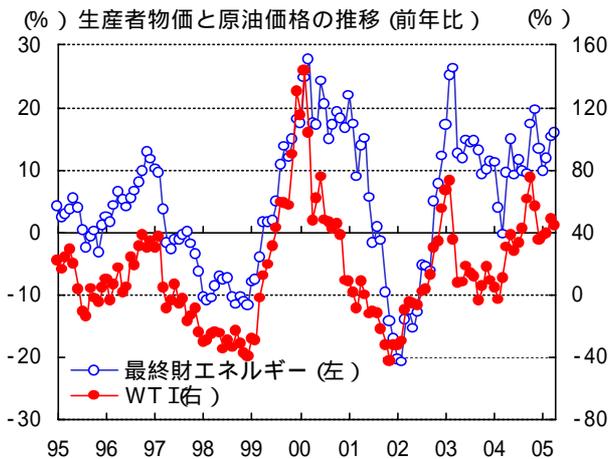
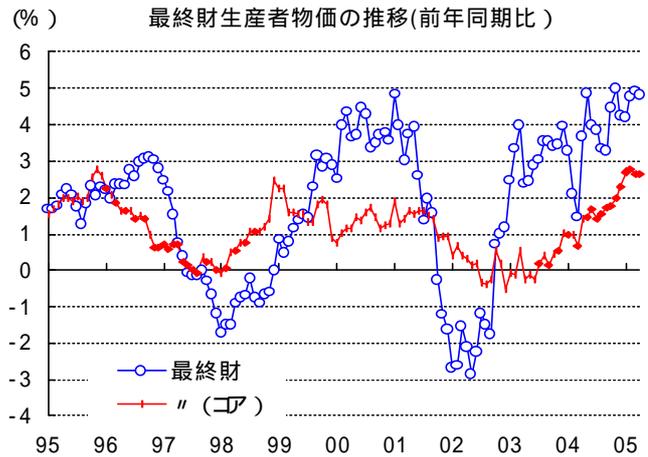
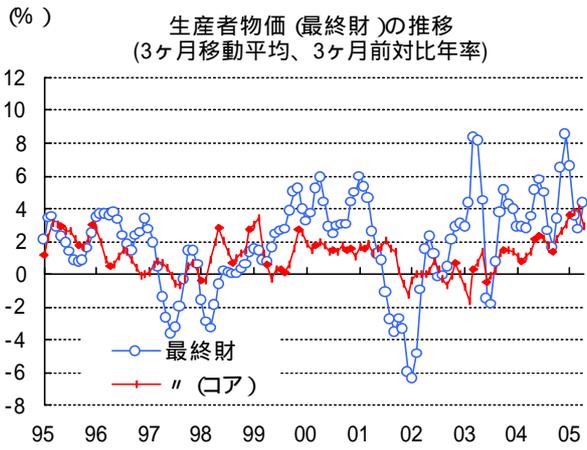
他方、設備投資の好調が続く資本財では、品質向上や値引きによって大幅な下落が続いたコンピューターが前月比 08%(3月同 34%)と下落幅が縮小した。さらに、需要が強い大型トラックが同+0.6%(同+0.4%)、トレーラーが同+1.0%(同+0.8%)、軽トラックが同+0.6%(同0.2%)と自動車関連で価格が上昇した。一方で、オフィス・店舗機器が同 35%(+0.1%)、X線・電子医療機器が同 1.3%(同+0.2%)と下落に転じたこと等によって、全体では同+0.2%(同+0.3%)と鈍化した。

生産者物価(最終財)コアは前年比で鈍化する見込み

今後に関しては、川上でのインフレ圧力を示す原材料(コア)が4月に166%(3月161%)と下落幅が拡大していること、中間財(コア)に2ヵ月程度先行する仕入価格指数(ISM製造業景気指数)が2004年4月をピークに低下傾向を辿っていること、商品・原油価格が足下で高値から低下していることから、目先川上段階でのインフレ圧力はピーク時から徐々に弱まっているとみられる。

今後、世界的な景気拡大持続に伴う供給不足懸念や、過剰流動性を背景にエネルギー価格の高止まり、或いは上昇が続く可能性が高く、商品価格も高止まりする可能性がある。このため、原材料価格(コア)も再び上昇に転じると見込まれる。しかし、製造業では数量効果、情報化投資やリストラクチャリング等による生産性の向上、利益率の改善などによってコストの増加をある程度吸収できるとみられる。さらに、物価押し上げ圧力が前年比では年末にかけて限界的には縮小することから、生産者物価(最終財)コアの上昇ペースは前年比で鈍化する公算が大きい。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。